



JA新しいわての自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわての「農家所得の増大」や「地域の活性化」に向けた取り組みを紹介。今月は、農家所得向上に向けた「農家手取り最大化プロジェクト」について紹介します。

農家手取り最大化プロジェクトとは

JAでは、農業者の所得増大と持続可能な農業生産・農業経営の実現に向け、JA・全農いわたが連携し、稲作のモデル生産者へ資材コスト低減や省力化技術、生産性の向上などの実践メニュー提案を行い、平成30年度までに「農家手取り20%アップ(H27年度基準)」を目指し、平成28年度から取り組んできました。

実践メニュー

	区分	実践メニュー
1	物財費削減	大型規格農薬の導入
2	労働費低減(省力化)	高密度苗(乳苗)移植栽培
3		湛水直播栽培(鉄コーティング)
4		乾田直播栽培
5		直播雑草防除体系の改善
6	生産性向上	土壌診断に基づく新規BB肥料の導入
7		生産管理システム(アグリノート)の普及拡大
8		水稻多収品種の導入
9		「銀河のしずく」の栽培
10		作業分散の取り組みと労力支援の提案(Z-BFM)
11		水田センサーの導入
12		ドローンの導入
13		スマート自動給水機の導入

今後の取り組み

今年度は、新たに2経営体がモデルとなり、栽培技術の確立や新技術の運用を行い、課題である持続可能な農業生産・農業経営の実現を目指してまいります。

生産者の声



農事組合法人ユニティファーム七区 代表 たかはた たけみ 高畑 武巳さん

モデル農家として取り組み、土壌診断に基づいた施肥設計で、施肥重量が減り軽量化し、高密度苗の導入では、播種枚数を減らすことができ、管理・労働力のコストが低減できました。遊休ハウスを活用したミニトマトの養液栽培(ういずOne)にも取り組み、通年通した雇用と夏場の収益の確保ができています。

今後はさらに研究を進め、それぞれの経営に合わせた提案を進めていただきたいと思います。